

## JR職員住宅跡地暫定利用

### 跡地に クローバーの 芽吹き



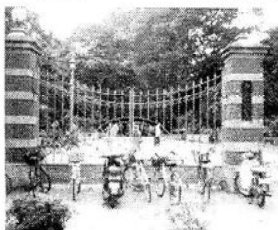
JR職員住宅跡地の暫定利用は原っぱと学校園に決まり、跡地にはホコリ防止のためにクローバーの種が蒔かれました。冬を迎える時期に蒔かれましたので、まだチラホラですが芽が出ています。春には緑のじゅうたんになることでしょう。

また、池二小と文成小が学校園として利用する場所も決まりました。池二小が敷地の東側、擁壁の下の部分、文成小が上の部分を使います。各小学校ではどのような使い方をするか検討中です。4月を待たずに使いたいと張り切っています。

## 百聞は一見にしかず JR跡地検討会事例見学会

JR職員住宅跡地利用検討会では、跡地利用の参考にするために、先進的な事例の見学会を行いました。見学に伺ったのは下の4ヶ所。事例にはいろいろなタイプのものがあります。今の段階ではどうい

### ●杉並コース……蚕糸の森公園・馬橋公園



杉並コースの特長は、学校に隣接した防災公園ということです。とは言っても2つの公園には大きな違いがあります。蚕糸の森は

塀のない学校と公園が校庭を共有して非常にオープンなつくりとなっていますが、馬橋公園では別の施設となっており、相互には行き来ができません。蚕糸の森では地元の方が熱心に管理に協力されているのが印象的でした。

### ●世田谷コース ……ねこじゃらし公園・代沢せせらぎ公園



世田谷コースは原っぱのある公園ということで選ばれました。ねこじゃらし公園は草の原っぱ、代沢せせらぎ公園は芝生の原っぱとその作られ方は対照的です。昔の空き地のイメージの残るねこじゃらし公園では、地域の愛犬家の方々が自主的に「ワンワン会議」というものをつくり、人と犬が共存できる公園づくりに取り組んでいます。

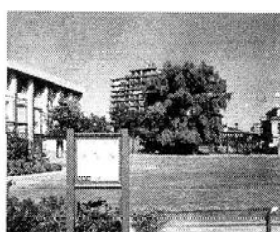
### ●墨田・足立コース ……一寺言問防災まちづくり広場・関原防災広場、防災果樹園



墨田・足立コースは古くから防災に取り組んできた地区です。一寺言問地区は、雨水を生かす路地専などを生み出したことで有名な地区。工場跡地にできた防災まちづくり広場には集会室と小広場が作られています。関原地区ではその後の防災公園のモデルとなった、さまざまなアイデアを凝らした防災公園や防災果樹園が作られています。

工場跡地にできた防災まちづくり広場には集会室と小広場が作られています。関原地区ではその後の防災公園のモデルとなった、さまざまなアイデアを凝らした防災公園や防災果樹園が作られています。

### ●葛飾コース ……四つ木四丁目公園・堀切二丁目公園



葛飾コースの2つの公園は、新しい防災公園の例となっています。どちらの公園も中央を広い広場に、周囲を樹木にしています。関原の防災公園をモデルにしており、かまど兼用ベンチや雨水貯留井戸などが作られています。ただ、2つの公園とも似たような印象で、特徴に乏しいところが残念です。

●池袋本町防災まちづくりの会では、災害時に地域で役に立っていただける「災害時の人材」をさがすことにしています。その本格作業に先立って何人かの方々からお話を伺いました。

多かったご意見は、「町会の組織を利用して救援救護のネットワークをつくる」、「組織地図を作る」、「災害時だけでなく日常的な関わりを持つ」というものでした。また組織化の時は、老人クラブやことぶきの家、学校、医師会や池袋本町福祉ネットワークと連携して、「して欲しいこと」と「出来ること」を共有することが大事、そのことで実践的になるということでした。災害時の救援の際には一番の働き手になってもらえる建築士木関係の方々「職人さん」は人と関わるのが苦手な人が多いけど、「私はこれなら出来る」という人の輪は夢ではない、本町ならそれが出来ると、安心と夢のあるお話を聞くことができました。日常的な声かけをするということは、災害時には大きな力を発揮することになるでしょう。また、前号で紹介した名取会長の「町会に入っていないくても近隣の人たちと何らかの関わりを持ってほしい」という言葉は、災害時には特に意味を持ちます。インターネットで世界中の人と交信で

きる時代ですが、緊急時には隣人を越えるものはありません。それぞれのご意見は、まちを守るという立場で縁の下の力持ち的な役割を果たしている町会への評価のあらわれでもあり、住民の知恵でもあります。21世紀の「人の輪、安心と夢」をキーワードにして、救援救護の働き手の輪を作りましょう。あなたのお力をお貸しください。(青山静可)

## 災害の時 役立つ あなた

災害時の人材さがし

●お正月に「がんばらない」(鎌田實著)という本を読みました。長野県諏訪中央病院の患者さんの「さびしさ」のケアに、お医者さんと地域の人達が、いかにかわっているかがテーマとなっています。

患者さんや、お年寄りの話し相手になったり、病院内に絵をかかけたり、四季の花を植えたりと、多様なボランティア活動で励ましています。そこには「私はこれなら出来る」という思いやりと、やさしさの心が伝わります。今、日本で最も注目されている病院だそうです。

さて、我が池袋本町地区、防災まちづくりの会でも、いざという時の救援救護の面で、支援していただける人を募っていく予定です。「私はこれなら出来る」という人たちで、リストがあふればかりになるといいなと思っています。(市川勇二)

## まちの歴史

## 文成小

文成小の歴史は昭和28年から始まりますから、今年で48周年になります。昭和28年と言えば戦後の混乱もおさまり、朝鮮動乱後の好景気に日本経済が息を吹き返した頃。豊島区でも空襲で焼けた町が復興され、多くの人々が集まり、人口が急激に増えだした頃です。それまで池袋本町には池二小がありましたが、児童が増えて1700名にもなったため2部授業でなんとかしのいでいる時でした。

文成小は池二小の分校としてスタートします。池二小全区域内外の協賛金150万円によって分校の建設協議会が作られ、5月10日に校舎が完成。同じ月の15日には正式に文成小として独立し、時の記念日の6月10日に開校式が行われました。当初は木造モルタル2階建ての校舎で、教室は8つしかなく、3年生と4年生は池二小に残しての開校でした。その後4教室が増築され、やっと全学年が揃ったのは12月になってからでした。

新設校ということで設備もすぐには充実せず、校

庭の整地、教室のカーテン、廊下や教室の床のワックスがけなどは父母の皆さんの勤労奉仕によって行われました。放送設備は先生方が天井を言いまわって配線をしました。今につながる文成小の愛校心の強さはここから始まっているようです。

開校当時の児童数は619人、学級数は12クラス。その後、児童数は急激に増え、開校から5年後には1000人を越え、クラス数も24学級にまでなりました。子供達が勉強できるようにするため、文成小の歴史は増築と改築、校舎新設の歴史でもあります。

文成小はまた、教育内容を充実するための教育研究校としての歴史もきざんでいます。文成小の名称には「文化を大成する」という意味が込められていますが、その名に値する活動を行って今日を迎えています。

